

■ 地域との共生を図りながらの水力発電の推進

経済性、立地環境などを総合的に勘案し、地域との共生を図りながら、グループ会社を含めて開発に取り組んでいます。また、河川の維持用水を放水するダムでの維持流量^{※1}発電やかんがい水路を利用した発電など、小規模水力の開発にも取り組んでいます。

2015年6月に鹿児島県始良市の龍門滝発電所^{※2} (150kW)が営業運転を開始し、2015年度末時点における発電所数は140か所、出力は約128万kWとなり、2015年度のCO₂排出抑制効果^{※3}は約252万トン^{※3}となりました。

また、2016年4月から佐賀県鹿島市の中木庭発電所^{※2} (196kW)、6月から鹿児島県大島郡大和村の新名音川発電所 (370kW)が営業運転を開始しました (2016年6月末時点の発電所数: 142か所)。両発電所の運転開始に伴い、年間約1,700トン^{※3}のCO₂排出抑制につながると試算しています。さらに、新たな水力開発への取組みとして、熊本県山都町の鴨猪地点で着工に向けた準備を進めています。

■ 周辺環境との調和を考慮した風力発電の推進

開発に向けた風況調査等を行い、長期安定的かつ経済的な発電が可能な有望地点において、周辺環境との調和も考慮した上で、グループ会社とともに開発を推進しています。

宮崎県串間市に設立した串間ウインドヒル(株)では、風力発電事業 (宮崎県串間市、出力64,800kW、2020年度運転開始予定)の環境影響評価を完了し、2016年度から建設工事を開始します。これにより、年間約57,000トン^{※1}のCO₂排出抑制につながると試算しています。

また、九電みらいエナジー(株)が、佐賀県唐津・鎮西地区における風力発電事業の開始に向けた調査を開始しました。

水力発電設備^{※4}とCO₂排出抑制量 (2015年度) 単位: kW

発電所	既 設	計 画 (約9,190 (▲3,900))	
	142か所	新甲佐 (熊本県)	鴨猪 ^{※2} (熊本県)
出 力	約1,280,490	7,200 (▲3,900) ^{※5}	1,990
2015年度 CO ₂ 排出抑制効果 ^{※3}	2,521,500トン	(2016年6月末現在)	

※1: ダム下流の生態系の保護など河川環境の維持のために放流する必要流量。

※2: グループ会社による開発。

※3: 2015年度の販売電力量あたりのCO₂排出量 (調整後) を使用して試算。

※4: グループ会社開発分を含む (揚水を除く)。

※5: 既設甲佐発電所の廃止分。



新名音川発電所



鷲尾岳風力発電所 (グループ会社の鷲尾岳風力発電 (株))

WEB 風力発電については、風力発電の概要とあわせて、長島風力発電所 (グループ会社の長島ウインドヒル (株)) の発電状況をリアルタイムで公開。

詳細は九州電力ホームページ

関連・詳細情報 (P2参照) > リアルタイムデータ (長島風力発電所)

風力発電設備とCO₂排出抑制量 (2015年度)

単位: kW

発電所	既 設 (約68,000)						計 画 (約92,800)	
	こしき じま 甌 島 (鹿児島県)	の ま みき 野間岬 (鹿児島県)	くろ しま 黒 島 (鹿児島県)	なが しま 長 島 ^{※2} (鹿児島県)	あま み おおしま 奄美大島 ^{※2} (鹿児島県)	わし お だけ 鷲尾岳 ^{※2} (長崎県)	串 間 ^{※2} (宮崎県)	唐津・鎮西 ^{※2} (佐賀県)
出 力	250	3,000	10	50,400	1,990	12,000	64,800	最大28,000
2015年度 CO ₂ 排出抑制効果 ^{※1}	100トン	900トン	実証試験設備	32,800トン	1,300トン	4,800トン	(2016年5月末現在)	

※1: 2015年度の販売電力量あたりのCO₂排出量 (調整後) を使用して試算。

※2: グループ会社による開発。

用語集をご覧ください

>> 維持流量

>> 風況

>> 揚水 (発電)

>> 環境アセスメント

(環境影響評価)

>> 生態系